

県内9か所の農業改良普及センターからの現地情報をお届けいたします。

みやぎの

10月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.224 2025.10

紹介内容（9/1～9/30）

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

- 亘理農改：亘理町農産加工推進協議会が丸森町を視察しました
- 大河原農改：東北・北海道地域農業士研究会の現地視察研修が行われました
- 亘理農改：越冬春菊栽培講習会が開催されました
- 大河原農改：柴田町の農業法人がブロッコリーの畝立て・定植を行いました
- 大河原農改：第1回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました
- 登米農改：みやぎ農業未来塾「水稻・麦・大豆の最新の研究成果を学ぶ」を開催しました！
- 気仙沼農改：令和7年度JA新みやぎ階上いちご部会の通常総会が開催されました。
- 亘理農改：令和7年度第1回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました

② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

- 登米農改：女性農業者の学習会が開催されました
- 石巻農改：女性農業者キャリアアップ講座を開催しました
- 仙台農改：農業大学の令和7年度先進農業体験学習が始まりました！
- 大崎農改：「農事組合法人きよみず」の創立総会が開催されました！
- 石巻農改：宮城県農業大学の先進農業体験学習開始式が開催されました
- 登米農改：登米市農業士会経営向上研修会が開催されました
- 亘理農改：農業大学の「先進農業体験学習」が始まりました
- 大河原農改：仙南4Hクラブ研修会を開催しました

③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

- 美里農改：「スマート農業×直播たまねぎ」：次世代の省力栽培方法とは！？令和7年度水田を活用した露地野菜セミナーを開催しました！

④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6

- 登米農改：JAみやぎ登米りんご生産部会視察研修会を行いました
- 亘理農改：株式会社一莓一笑が「みやぎ園芸振興大賞」を受賞しました
- 石巻農改：石巻地域さつまいも現地検討会を開催
- 石巻農改：トマト黄化葉巻病及びタバココナジラミ対策研修会を開催しました
- 仙台農改：若手ねぎ生産者の先進地視察研修会を開催！
- 気仙沼農改：JA新みやぎ階上いちご部会の視察研修が開催されました
- 気仙沼農改：JA新みやぎ南三陸地区園芸部会のせり視察研修会が開催されました
- 登米農改：株式会社石ノ森農場が第7回みやぎ園芸振興大賞を受賞しました！

このニュースレターは、ホームページ(カラー版)でご覧になれます。<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nosin/gennba1.html>
このニュースレターに掲載している情報を一足早く紹介するブログもあります。<https://blog.goo.ne.jp/miyagifukyu>

- 亘 理農改：名取ハウス部会抑制胡瓜現地検討会が開催されました
- 美 里農改：北浦梨の直売所が開店しました！～「美里町北浦梨フェア 2025」好評開催中！
- 亘 理農改：亘理町果樹振興会視察研修会が開催されました
- 仙 台農改：ＪＡ仙台いちご部会の「いちご栽培講習会及び害虫防除研修会」が開催されました
- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催されました
- 大河原農改：村田地区そらまめ部会の総会、栽培講習会が開催されました
- 登 米農改：いちごの花芽検鏡を行いました！
- 気仙沼農改：南三陸地域花卉生産協議会の花卉圃場現地検討会が開催されました

⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

- 登 米農改：小麦種子の農産物検査が行われました
- 大河原農改：宮城県畜産総合共進会に向けた出品牛の集合指導会が開催されました

⑥ 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

- 大 崎農改：野菜をたっぷり使った料理を味わいました
- 大河原農改：丸森ゆめ工房が商品化にむけておはぎを試作しました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13

- 登 米農改：ＪＡみやぎ登米にみどり認定のグループ認定証が交付されました！

② 要請・緊急・その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

- 登 米農改：令和７年度登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました
- 大河原農改：大学生のインターンシップを受け入れました
- 石 巻農改：第１回石巻地域普及活動検討会を開催しました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

- 亘理町農産加工推進協議会が丸森町を視察しました
令和7年9月2日
亘理農業改良普及センター



令和7年8月7日、亘理町農産加工推進協議会が主催する視察研修会が丸森町で実施されました。この研修会は、亘理町の農産加工をさらに推進することを目的としています。

【直売所の視察】

はじめに訪れた「いなか道の駅やしまや」と「あがらいん伊達屋」では、地域の特色ある加工品を視察しました。参加メンバーは、きゅうりや梅の漬物を試食しながら、地域独自の調理方法について熱心に質問していました。

【柿渋染め体験】

次に、ゆり工房による柿渋染めを体験しました。参加者は柿渋を使い、思い思いの模様のランチョンマットを作成し、加工技術への理解を深めました。

今回の視察研修で得たヒントを活かし、亘理町の農産加工の取り組みがさらに発展することが期待されます。

普及センターでは、今後も地域の農産加工や直売に取り組む生産者を支援していきます。

- 東北・北海道地域農業士研究会の現地視察研修が行われました
令和7年9月3日
大河原農業改良普及センター



8月27日に、東北・北海道地域農業士研究会宮城県大会の、現地視察研修が行われ、東北6県・北海道・新潟県の農業士約130人が参加しました。視察では経営品目ごとに5コースに分かれ、県内の指導農業士を訪問しました。

大河原管内では、指導農業士の山家一彦氏（不忘果樹園、蔵王町、果樹コース）、鈴木学氏（はるはなファーム（株）、丸森町、花卉コース）が視察先となり、それぞれ品種や販売方法等の経営内容について説明がありました。参加者からは、気候変動への対応方法や消費者の需要に応じた品種選定の方法、雇用状況等について質問が出され、活発な意見交換が行われました。

普及センターでは、今後も農業士の資質向上に向け支援を行ってまいります。

- 越冬春菊栽培講習会が開催されました
令和7年9月4日
亘理農業改良普及センター



令和7年8月26日にJ A仙台主催の越冬春菊栽培講習会が開催され、生産者や営農指導員等50人ほどの参加がありました。

当普及センターから「播種」「灌水」「温度管理」な

どの栽培技術のほか、近年の温暖化による「平均気温の上昇傾向」や「土壌診断の活用」について情報提供しました。

講習会を通じて春菊の栽培方法はもとより、平年よりも高い傾向にある気温や施肥管理に関わる土壌分析への意識付けができたと感じました。

夏の高温による影響で春菊が発芽しにくいなどの影響がある中、当普及センターでは、定期的な巡回やＪＡ仙台との連携により、亘理町逢隈地区を中心とする県内一の春菊産地の維持・拡大を支援していきます。

○柴田町の農業法人がブロッコリーの畝立て・定植を行いました

令和 7 年 9 月 8 日

大河原農業改良普及センター



柴田町の農事組合法人「葉坂希望の郷」では、秋冬季の収益向上を図るため、ブロッコリーの生産に取り組んでいます。

今作のブロッコリーは、春作に加工用トマトを生産したほ場に作付けしています。8月27日には、作業の高精度化によって省力と増収を図る目的で、農業・園芸総合研究所とヤンマーアグリジャパン株式会社の協力のもと、RTKを活用した自動操舵による畝立てと定植の実証を行いました。

当日は、柴田町や大河原町役場の職員、近隣の生産者等が見学に訪れ、従来の作業機と比べて作業精度の高さや高速化された様子を確認していました。法人構成員からは、11月以降の収穫に向けた生産への意気込みが感想として出されました。

当管内では、ほ場整備の進行に合わせて、水田で生産する高収益作物としてブロッコリー等の露地野菜生産を振興しています。普及センターでは今後も関係機関と連携し、法人経営の安定に向け園芸品目の定着支援を行ってまいります。

○第1回大河原地域農業普及活動検討会を開催しました

令和 7 年 9 月 11 日

大河原農業改良普及センター



普及センターでは、普及活動を計画的かつ効果的に推進するため、農業者や消費者、関係団体等の外部委員（普及活動検討委員）からご意見をいただき、普及活動検討会を年2回開催しています。

令和7年9月4日に開催した第1回検討会では、柴田町のほ場整備地区の法人を対象とした、ドローンによる湛水直は栽培の水田ほ場を視察しました。外部委員からは、移植栽培と遜色ない水稻の生育状況に、驚きとともに省力化技術への期待の声が聞かれました。

その後、みやぎ仙南農業協同組合に移動し、令和7年度普及指導計画及びプロジェクト課題の上半期の活動等について、各委員それぞれの視点からご意見や評価をいただきました。

普及センターでは、今回いただいたご意見を後半の活動に生かしながら、効果的な普及活動に努めていきたいと思えます。

○みやぎ農業未来塾「水稻・麦・大豆の最新の研究成果を学ぶ」を開催しました！

令和 7 年 9 月 24 日

登米農業改良普及センター



令和7年9月4日に、県の古川農業試験場(大崎市)で「水稻・麦・大豆の最新の研究成果を学ぶ」をテーマに農業後継者を対象とした研修会としてみやぎ農業未来塾を開催し、新規就農者4人が参加しました。

今回の研修は、古川農業試験場が取り組む試験研究について知見を深めてもらうことで、管内新規就農者の技術向上、知識習得を図ることを目的として開催しました。当日は古川農業試験場の職員による試験研究の紹介や水稻の乾田直播栽培の説明を通じて、最新の栽培技術について学ぶことができました。また、ほ場見学では、ドローンを用いて播種作業を行った研究に興味を示している方も多く、質問が相次ぎました。

当普及センターでは、今後も新規就農者を対象に研修会等の開催や個別巡回による支援を実施していきます。

○令和7年度JA新みやぎ階上いちご部会の通常総会が開催されました 令和7年9月24日 気仙沼農業改良普及センター

令和7年8月19日に気仙沼市内にて、JA新みやぎ階上いちご部会通常総会が開催され、部会員7名の他、JA新みやぎ、地方卸売市場株式会社流通市場、気仙沼農業改良普及センターの職員各1名が出席しました。

部会長の挨拶の後に行われた議事検討で提案された議案は全て承認され、今後の取り組みとして、品質向上に向けた新規農薬や資材の活用について検討していくことにしました。また、令和7年度事業は、「多くの消費者の皆様に安心・安全な気仙沼いちごを届けられるよう、品質のさらなる向上を目指し、研修会、検討会を開催する」を方針として活動していくこととしました。

普及センターでは今後も生産技術向上、いちご産地としての銘柄と基盤確立に向けJA新みやぎ階上いちご部会の活動を継続的に支援して参ります。

○令和7年度第1回亘理地域農業普及活動検討会を開催しました 令和7年9月25日 亘理農業改良普及センター



令和7年8月29日に、普及指導活動の実施状況について、外部有識者等から活動手法や内容などの評価と課題解決に向けた助言をいただくため、検討会を開催しました。今年度の活動について、各課題リーダーから中間報告を行いました。その他、岩沼市の寒風澤農園に移動してきゅうり栽培ほ場を視察し、先進的な取組と普及との関わり等を説明しました。

委員の方々からは、①若手生産者への技術・知識の指導の重要性と成果が現れていること、②ほ場整備地区における法人設立や地区外も含めた営農の仕組み作りに対する期待、③組織内の意識改革の取り組みや中期経営計画と人材育成が同時に目標設定されていること、が評価できるとのご意見をいただきました。

また、今後の活動に対するご助言もいただきましたので、これからの普及活動に生かしてまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○女性農業者の学習会が開催されました 令和7年9月1日 登米農業改良普及センター



登米市内の女性農業者で組織する「アグリレディ

「一歩ネットとめ」の学習会が8月21日に開催されました。今年は、みどりの食料システム戦略やそれに関連する施策等を学びました。みどり認定やJ-クレジットなど自らの農業経営に直接関係する制度のほか、登米市が取り組むオーガニックビレッジについても紹介され、参加者は日頃感じていることなどを質問しながら、施策や各種制度について理解を深めることができましたようです。

○女性農業者キャリアアップ講座を開催しました 令和7年9月4日 石巻農業改良普及センター



令和7年8月20日に女性農業者キャリアアップ講座「ライフプランセミナー」を開催し、女性農業者グループ「ベジ☆hope」会員等6名が参加しました。

講師にoffice305代表の佐藤美和子氏をお招きし、「今から始める資産形成とライフプラン」と題した講義を行っていただきました。事前に参加者から希望のあったNISAやiDeCo等の資産運用についてや子供の大学進学を前提とした教育費をテーマに教育費の現状や奨学金の活用について説明していただきました。

講義後には参加者の間で積極的な意見交換が行われ、個別で講師への質問も行われました。

参加者からは、「資産運用について理解が深まり、始めてみたい」、「年齢的に気になるのでライフプランの作成・見直しを行いたい」との感想が聞かれました。

今後も、普及センターでは様々な行事を通して、女性農業者の資質向上やネットワークの形成を支援していきます。

○農業大学の令和7年度先進農業体験学習が始まりました！ 令和7年9月11日 仙台農業改良普及センター



令和7年9月8日(月)に仙台農業改良普及センターにおいて、農大生、受入農家、関係機関による先進農業体験学習の開始式が行われました。

今年度は、当管内で12名の受入農家の皆様にご協力いただき、9月8日(月)の開始式から10月10日(金)の終了式までの33日間、学生達は各農家で生産技術や経営管理などを学ぶ研修を行います。

開始式の中では、学生達から研修に臨むに当たり3つの目標が発表されました。学生らは、技術の習得や農業経営の工夫を学びたい、積極的にコミュニケーションをとりたいといった内容で、それぞれが将来を見据えた意欲ある目標を掲げていました。

普及センターでは、研修期間中に巡回を行いながら、学生と農家を支援してまいります。33日間の研修を通じて、多くの学びと成長を得られることを願っています。

○「農事組合法人きよみず」の創立総会が開催されました！ 令和7年9月16日 大崎農業改良普及センター



色麻町清水地区(約72ha)の清水集落営農組合は、令和4年度に採択された農地整備事業を契機として、法人設立を目指し話し合いを進めてきました。令和5年度からは、普及センターのプロジェクト課題において、ワークショップ形式の座談会や先進地視察などを実施し、法人化に向けたビジョン形成の支援を行ってきました。組合内で話し合いを重ねた結果、令和7年度に集落ぐるみ型の農事組合法人を設立することで合意形成がなされました。

今年度は発起人会を発足し、法人化に必要な事業計画、定款などの作成を進めてきました。令和7年9月8日には創立総会が開催され、9月17日に「農事組合法人きよみず」として法人登記される予定です。

同法人が色麻町農業の新たな担い手として活躍できるよう、関係機関と連携しながら、普及センターで

も引き続き組織運営などの支援を行っていきます。

○宮城県農業大学校の先進農業体験学習開始式が 開催されました

令和7年9月18日

石巻農業改良普及センター



令和7年9月8日に、石巻合同庁舎で宮城県農業大学校の先進農業体験学習開始式が行われました。

先進農業体験学習は、農業大学校の1年生が9月8日から10月10日までの33日間にわたり、先進的な農業を実践する農業者の元で研修を受けるものです。

今回、石巻管内で先進農業体験学習に取り組むのは、水田経営学部の学生3人で、3つの農業法人でそれぞれ農業体験を行います。

3人からは栽培管理技術や、個別農家と法人の経営管理手法の違いなどを学びたいなどの学習目標の発表がありました。

この体験学習の中で、農業現場を肌で感じ、机上ではできない様々な経験をすることにより、10月10日の終了式で一回り大きく成長した姿を見られることを期待しています。

○登米市農業士会経営向上研修会が開催されました

令和7年9月24日

登米農業改良普及センター



農業士の経営内容を相互に視察し自らの経営発展に役立てるとともに、地域の農業後継者との交流を図ることを目的とした、登米市農業士会主催の研修会が9月11日に開催されました。当日は農業士、4Hクラブ員の他、9月8日から約1か月間、市内の先進的な農家で研修を行っている市内出身の宮城県農業大学校1年生4人も参加し、農業士3人の経営状況を視察しました。今回の視察先は、登米市を代表する露地野菜経営、施設野菜経営、肉用牛一貫経営で、

それぞれの特徴的な経営内容に各参加者は大きな関心を寄せながら説明に聞き入っていました。特に、農業大学校生にとっては地元の多様な農業を学ぶ有意義な機会となったようです。

※「農業士」：優れた農業経営を実践し、地域農業の振興や次代の農業を担う人材の育成に貢献している農業者で、都道府県が認定しています。

○農業大学校の「先進農業体験学習」が始まりました

令和7年9月25日

亘理農業改良普及センター



令和7年9月8日に、亘理農業改良普及センターで農業大学校先進農業体験学習の開始式が行われました。

9月8日から10月10日までの33日間、亘理管内では、農業大学校1年生の13名が、先進的な農業を実践する農業者の元で研修を受けます。

開始式では、学生から「栽培技術を身に着けたい」「農業経営について学びたい」「人間として成長したい」といった、研修に対する熱い意気込みを聞くことができました。

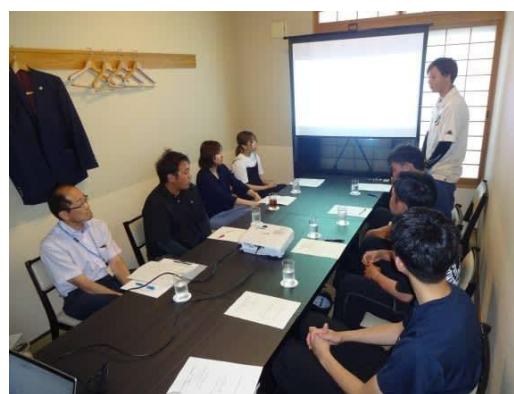
約1か月という短い期間ですが、学生にとって農業経営の現場に直接触れることができる大変貴重な機会です。この研修を通して農業への理解を深め、将来、就農をはじめ様々な形で農業に携わるきっかけとなることを願っています。

今後も、普及センターは地域農業の未来を担う新規就農者や青年農業者の支援を行ってまいります。

○仙南4Hクラブ研修会を開催しました

令和7年9月29日

大河原農業改良普及センター



仙南農村青少年クラブ連絡協議会（仙南４Ｈクラブ）が、８月２７日に大河原町天然温泉いい湯において、㈱ヒルズ代表取締役佐藤克美氏を講師に招いて研修会を開催しました。

「青年時代に描いていた経営に対するビジョンについて」と題した講話では、本業の養豚やそれ以外の事業展開に対する苦労話にクラブ員から数多くの質問が出されました。

仙南４Ｈクラブは、交流を通して学びを求めている会員を募集中で、この研修会にも入会検討中の２名が参加しました。

今後も普及センターでは４Ｈクラブへの継続的な支援を行っていきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化

○「スマート農業×直播たまねぎ」：次世代の省力栽培方法とは！？ 令和７年度水田を活用した露地野菜セミナーを開催しました！

令和７年９月１日

美里農業改良普及センター



加工業務用野菜の需要拡大を背景に、管内のたまねぎの生産面積は令和４年の約４haから今年は約８.６haに倍増しており、省力化や安定生産に向けた取組が重要となっています。そこで、規模拡大に取り組む生産者や関係機関を対象に、スマート農業技術を活用した効率的な管理や、たまねぎの「直播栽培」技術（育苗と定植が不要）について学ぶセミナーを令和７年８月５日開催したところ、生産者やＪＡ等の関係者、６０人に参加いただきました。

セミナーでは、クボタアグリサービス株式会社仙台北担い手推進部長の横田氏を講師に、ほ場管理システム（KSAS）を活用した効率的な営農管理の導入事例や、管内法人が取り組む直播栽培たまねぎ技術について御講演いただきました。また、県からは、宮城県のスマート農業技術の取組状況や試験研究の動向、管内の直播栽培たまねぎの取組について紹介しました。

参加者からは、「人手不足や高齢化の時代の中で、今までの栽培方法と収量は同等で負担軽減されるのであれば、とても良いと感じた。」、「県内でも注目されている直播栽培たまねぎや、ほ場管理システムなどのスマ農の取組について学ぶことができ、有意義だった。」との声をいただき、直播栽培やスマート農業に関する関心の高さを改めて感じる事ができました。

④園芸産地の育成・強化支援

○ＪＡみやぎ登米りんご生産部会視察研修会を行いました

令和７年９月３日

登米農業改良普及センター



令和７年８月２１日にＪＡみやぎ登米りんご生産部会視察研修会が開催され、生産者および関係機関担当者９名が参加しました。

岩手県農業研究センターを視察し、新品種の紹介や省力樹形の説明を受けるとともに、「はるか」の有袋栽培を行っている園地を見学しました。

「はるか」のような黄色い品種は、さびや果点（表面に見られる白い斑点）が目立ちやすい特徴がありますが、有袋栽培によりこれらの発生を抑え、美しい果皮での収穫が可能となります。

また、省力化・低コストで高品質かつ安定した生産を目指す技術についても説明を受け、今後の生産活動において大変参考となる視察となりました。

今後も普及センターでは、関係機関と連携しながらりんご生産の支援に努めてまいります。

○株式会社一莓一笑が「みやぎ園芸振興大賞」を受賞しました

令和 7 年 9 月 4 日

亘理農業改良普及センター



令和 7 年 8 月 31 日に、仙臺緑彩館で「令和 7 年度宮城県園芸振興大会」が開催され、当管内の農業法人である株式会社一莓一笑が「みやぎ園芸振興大賞」を受賞しました。

「みやぎ園芸振興大賞」は、平成 30 年度から始まった宮城県独自の表彰制度で、園芸品目の生産、流通、加工及び販売等に係る団体等を対象とし、本県園芸産出額の向上に寄与する取組を行った団体等を称えるものです。

大賞を受賞された株式会社一莓一笑は、東日本大震災で被災したいちご生産者 3 人で平成 24 年に設立され、社名には「一粒のいちごで一人ひとりを笑顔にしたい」という思いが込められています。

今回の表彰では、環境制御技術の導入や観光農園を開設し生産額を向上させているほか、女性活躍推進や農福連携、後継者育成等に積極的に取り組んでいる点が評価されました。

普及センターでは、今後も園芸振興に向けて関係機関と連携し支援してまいります。

○石巻地域さつまいも現地検討会を開催

令和 7 年 9 月 8 日

石巻農業改良普及センター



令和 7 年 8 月 29 日に、石巻市河南地区の農事組合法人エコルファームの作業舎、ほ場を会場に、普及センター・農業振興課主催による「石巻地域さつまいも現地検討会」を開催し、農業法人や農地整備事業予定地区の担い手、関係機関担当者など 41 名が参加しました。

当普及センターからさつまいもの収穫と貯蔵の情報提供を行い、エコルファームの後藤代表から、

異常気象での栽培上の工夫や簡易キュアリングの実践例などを紹介いただきました。さらに、農業振興課から生分解性マルチの現地実証試験を説明したのち、生分解性マルチのつる刈り、掘り取り作業方法について、みかど化工株式会社の担当者を講師に講習を受けました。

現地ほ場では試し掘りを行い、7 月の干ばつや高温障害が心配されましたが、最大で 200 g 程度の大きさに肥大しており、昨年と比べ差がない状況となりました。

また、参加者から「ほかの生産者の取組を見ることは勉強になる」「情報を交換できるのが良い」などの感想が聞かれ、好評のうちに閉会しました。

普及センターでは、これからも関係機関と連携し、さつまいもの生産振興に取り組んでいきます。

○トマト黄化葉巻病及びタバココナジラミ対策研修会を開催しました

令和 7 年 9 月 9 日

石巻農業改良普及センター



石巻農業改良普及センターは令和 7 年 8 月 22 日に J A いしのまきとの共催により「トマト黄化葉巻病及びタバココナジラミ対策研修会」を開催しました。

普及センターのプロジェクト課題でのタバココナジラミ発生状況調査や防虫ネット・天敵利用効果調査の結果について情報提供するとともに、農業・園芸総合研究所虫害チームの研究員から「タバココナジラミ防除の基本と国内の試験研究における知見について」と題して講演を行いました。研修会後には参加した石巻地域のトマト生産者から「タバココナジラミの増加を防ぐには対策の強化が必要とわかった」、「0.4 ミリ目合い防虫ネットの侵入防止効果の高さが現地試験の経過からもわかった」といった感想が聞かれ、タバココナジラミ防除意識の強化につながったようでした。

普及センターでは、令和 8 年度までのプロジェクト課題の活動を通じ、黄化葉巻病の発生抑制に向けてタバココナジラミの防除対策を強化し、石巻地域のトマト生産を支援していきます。

○若手ねぎ生産者の先進地視察研修会を開催！

令和 7 年 9 月 9 日

仙台農業改良普及センター



プロジェクト課題の取組の一貫で、J A新みやぎあさひなねぎ部会の若手生産者を対象とした先進地視察研修を、令和7年8月19日、山形県天童市の大規模法人を会場に開催しました。

当日は、生産者の家族を含めた4名が参加し、視察先の代表者へ、微生物資材や緑肥を用いた土づくりや高温時の作業、雑草や病害虫の対策等活発な質問を行い、全国トップレベルの栽培管理を学びました。その後、従業員の方の案内で実際にねぎの栽培ほ場を見学し、土づくりや中耕・土寄せを中心とした雑草管理等の重要性を改めて意識する有意義な研修となりました。

普及センターでは、プロジェクト課題の取組を通じて、今後とも若手ねぎ生産者の栽培技術の習得を支援していきます。

○JA新みやぎ階上いちご部会の視察研修が開催されました
令和7年9月21日
気仙沼農業改良普及センター



令和7年8月5日にJ A新みやぎ階上いちご部会主催の視察研修会が開催され、いちご生産者6人が

参加しました。視察先は育苗技術の向上を目的に普及センターで選定・調整しました。

当日は、石巻市と東松島市の生産者の育苗ハウスに伺い、気仙沼ではほとんど行われていない夜冷短日処理や、受け苗後のいちご苗の様子を見学しながら、質疑応答が行われました。

今年は高温の影響で活着不良が多かったこともあり、挿し苗の品質や受け苗の管理方法についての質問が飛び交いました。

普及センターでは、引き続きいちごの安定生産に向けた支援を行っていきます。

○JA新みやぎ南三陸地区園芸部会のせり視察研修会が開催されました
令和7年9月12日
気仙沼農業改良普及センター



令和7年9月4日、J A新みやぎ南三陸地区園芸部会主催のせり視察研修会が農業・園芸総合研究所を会場に開催され、生産者5人が参加しました。視察内容、内容は栽培技術向上を目的に普及センターで調整しました。

当日は、農業・園芸総合研究所の担当者からせり栽培の講義を受け、その後、宮城型せり養液栽培システムほ場の視察見学を行いました。参加した生産者からは、せりの土づくりから水管理、養液栽培についての質問が飛び交い、有意義な研修会となりました。

普及センターでは、引き続きせりの安定生産に向けた支援を行っていきます。

○株式会社石ノ森農場が第7回みやぎ園芸振興大賞を受賞しました！
令和7年9月16日
登米農業改良普及センター





きゅうりや切り花生産を行う株式会社石ノ森農場が、このたび第7回みやぎ園芸振興大賞を受賞いたしました。令和7年8月31日に開催された令和7年度宮城県園芸振興大会では、山内社長が石川農政部長から表彰状を授与されました。

同社は、きゅうりの指定産地である登米市において、県内で初めての「環境制御設備付低コスト耐候性ハウス」を導入しました。これにより、きゅうりの環境制御技術が県内に広まるきっかけとなり、さらにJAみやぎ登米きゅうり部会の収量向上に、大きく貢献しました。これらの取組が大きく評価されたものです。

受賞後、山内社長は、JAみやぎ登米の石川組合長、登米市の熊谷市長、宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所の佐藤所長を表敬訪問されました。その際各方面から、引き続き「若い力と発想力で登米農業をけん引して欲しい」とエールが送られ、さらなる活躍に大きな期待が寄せられています。

○名取ハウス部会抑制胡瓜現地検討会が開催されました

令和7年9月17日

亘理農業改良普及センター



令和7年9月2日にJA仙台名取ハウス部会主催の抑制胡瓜現地検討会が開催され、生産者や資材メーカーなど10人が参加しました。

生産者のほ場6か所を巡回し、きゅうりの生育状況等を相互に確認し、管理について検討することができました。

地域の集会所に席を移した意見交換では、当普及センターから「今後の管理」や近年の温暖化による「平均気温の上昇傾向」について情報提供を行いました。また、退緑黄化病を媒介するタバココナジラミの防除が難しいなど、現場の課題についても意見交換を行うことができました。

当普及センターでは、定期的な巡回やJA仙台との連携により、名取市と岩沼市を中心とする地域のきゅうり生産を支援していきます。

○北浦梨の直売所が開店しました！～「美里町北浦梨フェア2025」好評開催中！～

令和7年9月19日

美里農業改良普及センター



美里町は県内有数の日本なし産地で、「北浦梨」は大正時代から続く特産品です。

今年は雨が少なかったため、なしの生育や食味が心配されましたが、8月下旬頃から順次収穫が始まり、美里町の秋の風物詩である直売所には大きさも甘みも十分な北浦梨が並んでいます。

また、毎年恒例の「美里町北浦梨フェア2025」は、令和7年8月30日（土）から9月28日（日）まで開催され、参加農産物直売所・スーパー等（美里町内15店舗、大崎市・涌谷町の3店舗）での北浦梨直売に加え、美里町内3店舗での北浦梨を使用した料理・スイーツが提供・販売されています。

秋が深まるにつれて、「豊水」や「あきづき」などの様々な品種が直売所に並びますので、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

詳細は、「美里町北浦梨フェア2025」ウェブペー

ジをご覧ください。

<https://www.town.misato.miyagi.jp/12kank/nashifair2024.html>

○亘理町果樹振興会視察研修会が開催されました
令和 7 年9月19日
亘理農業改良普及センター



令和 7 年 9 月 1 日（月）、亘理町果樹振興会主催で視察研修会が開催され、会員 12 人が参加しました。研修先の山形県農業総合研究センター園芸農業研究所では、果樹部長の案内で、りんご、さくらんぼ、ぶどうのほ場を見学し、高温対策や新しい樹形など、最新の研究成果について説明を受けました。次に寒河江市の株式会社中川果樹園を視察し、園主よりりんご栽培の工夫や加工品が紹介されました。参加者から高温対策や加工品の開発や販売に関する多くの質問があり、今後の経営に役立つ有意義な研修となりました。普及センターでは、気象経過や生育状況について情報提供を行う等、今後も本会の活動を支援していきます。

○JA仙台いちご部会の「いちご栽培講習会及び害虫防除研修会」が開催されました
令和 7 年9月 24 日
仙台農業改良普及センター



本格的な定植時期を前に、令和 7 年 8 月 26 日、JA 仙台いちご部会の「いちご栽培講習会及び害虫防除研修会」が亘理山元いちご選果場で開催されました。研修会では、ここ数年被害の多いアザミウマ類の防除対策について学びました。農業・園芸総合研究所から講師を迎え、アザミウマ類の防除対策として、天敵を含む複数の防除方法を組み合わせる等の提案をいただきました。

普及センターからは、後半の苗管理、定植の準備と定植、その後の管理について研修しました。平年よりも高温で経過しているため、花芽分化を確認し、予定より遅れても、分化が揃ってから定植するよう周知しました。

また、うどんこ病防除対策として導入されている「UV-B ランプ」の適切な使い方について、メーカーからの情報提供がありました。

管内のいちご生産は、10 月下旬から 6 月上旬にかけて約 8 か月間の長期にわたる収穫となるため、高温下では特に適期管理が大切になっています。

○JAみやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催されました
令和 7 年9月 24 日
登米農業改良普及センター



令和 7 年 9 月 10 日に、JA みやぎ登米キャベツ部会の現地検討会が開催され、部会員 8 人が参加しました。

今季は夏期の高温により定植のタイミングが遅れる、一部で生育不良が発生するなどの影響がありましたが、定植後の生育は比較的順調に進んでいました。普及センターからは、今後の気象予報と病害虫対策について説明を行いました。また、部会員のほ場を巡回し、生育の進み具合や病害虫・雑草対策について確認を行いました。

良質で食味の良い JA みやぎ登米のブランド「地中海キャベツ」の安定出荷に向け、普及センターでも、

生産技術向上に向けた支援を継続して行っていきます。

○村田地区そらまめ部会の総会、栽培講習会が開催されました
令和 7 年 9 月 25 日
大河原農業改良普及センター



仙南地域は、そらまめの需要が高まる 5～6 月に出荷できる有数の産地として、市場出荷の他、ゆうパックで全国に配送されるなど人気を集めています。特に、村田町ではそらまめを町の特産品に指定しており、生産振興を図っています。

J A みやぎ仙南村田地区そらまめ部会は、令和 7 年 8 月 28 日に総会と栽培講習会を開催し、部会員約 20 人が参加しました。総会では、そらまめの販売実績等について確認しました。今作は、3 月末の強風により倒伏したほ場もあった一方で、病害虫の発生が比較的少なく、品質の良いそらまめを出荷できました。

栽培講習会では、今作の振り返りに加え、倒伏や病害虫の対策を中心に普及センターから説明しました。また、栽培記録ができるチェックシートを配布し、来作に向けた年内の作業についても確認を行いました。

普及センターでは、今後も仙南地域におけるそらまめの品質向上に向けて、栽培技術指導等の支援を続けてまいります。

○いちごの花芽検鏡を行いました！
令和 7 年 9 月 26 日
登米農業改良普及センター



登米農業改良普及センターでは、8 月下旬から 9 月中旬にかけて、いちご生産者の方々を対象にいちごの花芽検鏡を行っています。

花芽検鏡とは、実体顕微鏡を使用して、いちごの苗の根元（クラウン）部分に花芽が形成されているかどうか、内部を調べる作業のことです。これにより、適正な定植時期や出（しゅつ）蕾（らい）（花を咲かせるためのつぼみが生じること）、開花の時期を予想することができます。花芽分化を確認した後に定植することで、年内の収量が安定するため、花芽検鏡の結果は重要で大切な調査となっています。

今年の夏は高温の期間が長く、一方で曇天が続く時期があるなど、いちごの苗にとって厳しい天候となりましたが、生産者の丁寧な管理により、充実した花芽が確保できていました。

本年の定植は、早い人で 8 月 30 日から始まり、9 月中旬頃まで続く予定で、出荷開始は 11 月上旬以降の見込みとなっています。

普及センターでは、いちごの安定生産に向けて、今後も栽培支援を行っていきます。

○南三陸地域花卉生産協議会の花卉圃場現地検討会が開催されました
令和 7 年 9 月 29 日
気仙沼農業改良普及センター



令和 7 年 9 月 9 日に J A 新みやぎ南三陸地域花卉生産協議会主催による 9 月お彼岸用菊類の現地検討会が開催され、生産者や関係機関等 10 名が参加しました。

現地検討会に先立ち、株式会社仙花の担当部長か

ら「猛暑により全国的にお盆ギクの開花に遅れが生じ、相場的に盛り上がらなかった。お彼岸ギクもその影響を引きずっている」との話があり、普及センターからは、4月から9月までの気象状況及び害虫対策について説明しました。

圃場現地検討会では、露地の生産ほ場を2か所視察し生育状況を確認しました。猛暑により全体的に開花が遅れており、小ギクは出荷が始まっている品種もありましたが、輪ギクは例年より2～3週間生育の遅れが見られました。降雨不足による切り花長不足が懸念されましたが、生産者が動噴やポンプを使ってかん水を行っていたことと、9月上旬の降雨により、2カ所とも切り花長は十分確保されていました。

普及センターでは、今後も管内花き産地の販売額向上を支援していきます。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○小麦種子の農産物検査が行われました

令和7年9月8日

登米農業改良普及センター



登米管内では、小麦の種子が生産されています。普及センターでは、生産された種子について、発芽率などを調査する生産物審査を行います。その後、みやぎ登米農業協同組合により農産物検査を行い、種子の基準を満たしているかどうかチェックします。

令和8年産播種用の小麦種子「あおぼの恋」「夏黄金」について、8月6日と26日に農産物検査が行われました。未熟粒や細麦がやや見られましたが、心配されていた赤かびの被害もほとんどなく、いずれの品種についても、計画していた数量を確保することができました。

普及センターでは、今後も優良な種子の生産に向

け支援を行ってまいります。

○宮城県畜産総合共進会に向けた出品牛の集合指導会が開催されました

令和7年9月8日

大河原農業改良普及センター



令和7年9月5日、6日に宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）が開催されます。それに向け、仙南地域では、7月11日に仙南地域和牛共進会が開催され、代表牛10頭が選抜されました。

今回は、8月4日に続き出品牛10頭を集め、発育や暑熱期の飼養状況について確認するとともに、本番まで1週間で調整する内容などを共有しました。また、ベテラン生産者による毛刈りが行われ、牛体の魅せ方が向上しました。前回調教指導員から指摘された、体の引き締まりはこれまでの飼養管理により改善傾向にあります。出品牛10頭のうち、管内で生産された基幹種雄牛「昭光茂」産子が6頭で、仙南地域の特色を示すことができる共進会となりそうです。

審査では、出品牛個々のレベルが高いことが要求され、かつ群出品では斉一性或いは相似性が重要となります。上位入賞を狙うのはもちろんですが、出品牛を通し仙南地域の特長や課題もしくは改善点をみんなで共有し、今後の牛群構築や集団育種推進事業に取り組んでまいります。

⑥地域資源の活用等による地域農業の維持・発

○野菜をたっぷり使った料理を味わいました

令和7年9月26日

大崎農業改良普及センター



令和 7 年 9 月 5 日、大崎地域農村生活研究グループの「やさい(831)の日研修会」を開催しました。グループ員が生産した野菜等の食材が、自分たちの手を離れてどのように調理され、提供されているかを学び、かつ、生産技術や出荷販売の工夫等について情報交換しようと企画したもので、グループ員等 22 人が参加しました。

大崎市古川のカフェ＆ラウンジ「ハナレイ」で開催した今回の研修では、空心菜やゴーヤ、白なすなど 16 種類の食材をふんだんに使った 25 品の料理が用意されました。白なすの色をいかしたポタージュや彩り豊かな夏野菜を贅沢に使ったキッシュ、たまねぎたっぷりのピザなど、普段の食べ方とは異なる工夫に参加者は感心しながら一つ一つ味を確かめていました。

普及センターでは、これからも農村女性の活動を支援してまいります。

○丸森ゆめ工房が商品化にむけておはぎを試作しました

令和 7 年 9 月 29 日

大河原農業改良普及センター



令和 7 年 9 月 19 日に丸森まちづくりセンターの生活改善室で、丸森ゆめ工房と関係機関がおはぎを試作しました。手際よく調理が行われ、約 2 時間で、あずきあん、ずんだ、ごま、きなこを使った彩りのよいおはぎが出来上がりました。

丸森中央集団転作組合では、令和 7 年 5 月に加工部「丸森ゆめ工房」を立ち上げました。主力商品とする白切り餅の他に年間を通して売れる商品として、おはぎが候補となっています。試作では、商品化を念頭に、米に砂糖、塩で味付けしたものと同味をつけないものをつくり、味、作業性の比較を行いました。今後、マルシェ等のイベント販売ができるように検討を重ねる予定です。

普及センターでは、今後も関係機関と連携を図りながら農業者の新たな取り組みを支援していきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

① 環境に配慮した持続可能な農業生産

○JAみやぎ登米にみどり認定のグループ認定証が交付されました！

令和 7 年 9 月 2 日

登米農業改良普及センター



令和 7 年 8 月 28 日に、JAみやぎ登米の石川組合長に対し、みどり認定のグループ申請認定証が登米農業改良普及センター安達所長から交付されました。

JAみやぎ登米は、平成 15 年から管内全域で環境保全米（C タイプ：化学肥料・化学農薬の施用量を県慣行の 1 / 2 以下とした生産基準）に取り組んでおります。今回、環境保全米（C タイプ）に取り組む生産者 1,379 人をまとめて、JAみやぎ登米がグループ申請し、令和 7 年 8 月 26 日付で認定されたものです。

県内における 7 月末現在のみどり認定数は約 380 経

営体でしたが、今回の1,379経営体のグループ認定により、認定件数が一気に増加することになります。

普及センターでは、引き続き、管内の環境負荷低減活動の取組を支援して参ります。

② 要請・緊急対策、その他

○令和7年度登米農業改良普及センター普及活動検討会を開催しました 令和7年9月10日 登米農業改良普及センター



令和7年9月3日、登米合同庁舎会議室において、令和7年度第1回普及活動検討会を開催しました。

本検討会は、今年度上半期の普及活動の状況について外部評価員にご意見をいただくことを目的としています。

評価員には先進的な農業者、女性農業者、マスコミ関係者、市役所、農業関係団体など外部の有識者7名を委嘱しています。

当日は、最初にねぎ栽培に取り組んでいる新規就農者の圃場を見学しました。就農までの経緯、栽培の苦労などについて説明を受け、評価員と質疑応答が行われました。皆さん新規就農者の取り組みに強い関心を示し、多くの質問が寄せられました。

その後、登米合同庁舎の会議室に移動し、普及センターが取り組んでいる、3つのプロジェクト活動について、中間的な成果報告を行い評価員と意見交換を行いました。

評価員からは、「この取り組みは今後必要になることだからデータを十分に収集し、地域で活用できるようにしてほしい」や「規格外で廃棄せず、有効利用できる方法を検討しては」など前向きで建設的な意見を多数いただきました。

評価員からの意見を活かして、下半期のプロジェ

クト活動を充実させていきたいと思っています。

○大学生のインターンシップを受け入れました 令和7年9月16日 大河原農業改良普及センター



宮城県では、大学生が在学中に各公所で実際の業務に触れ、公務員という仕事の理解を深め、職業意識を向上させることを目的にインターンシップの受け入れを行っています。

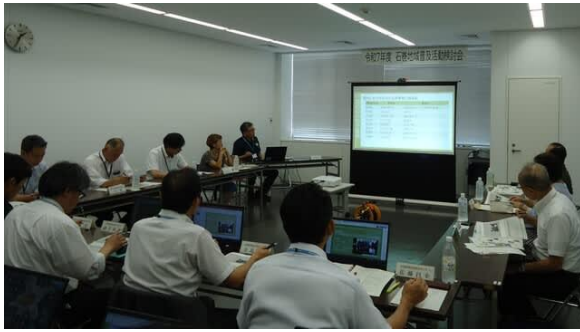
大河原地方振興事務所農業振興部（大河原農業改良普及センター）においては、9月8日から12日までの5日間、農学技術系職種を希望した学生1名のインターンシップを受入れました。

管内農業概要や農業改良普及活動に関する講義などの座学の他に、プロジェクト課題や新規就農者等の現地指導、水稻・果樹の生育調査などの業務を体験いただきました。

学生からは「生育調査は生育状況を数値で把握し、年次データの蓄積により的確な栽培指導を行うために重要な仕事だと感じました。また、農家から直接話を伺うことで、農業のイメージをひろげることができ貴重な経験でした。今回のインターンシップを通して、技術系公務員の業務の理解が深まりました。」と感想をいただきました。

今月末には、さらに1名のインターンシップを受け入れる予定であり、職業体験を通して県業務への理解促進やキャリア形成の一助となるよう、継続して支援を行ってまいります。

○第1回石巻地域普及活動検討会を開催しました 令和7年9月18日 石巻農業改良普及センター



9月1日に、石巻合同庁舎において令和7年度第1回石巻地域普及活動検討会を開催しました。この検討会は、普及活動の効率的かつ効果的な推進を図るため、先進的な農業者、市、農業関係団体、学識経験者等の検討委員の方々から、活動計画や活動内容に対する意見や提案をいただく外部評価の場として年2回開催しているものです。

今回は、今年度実施している4つのプロジェクト課題について、これまでの取り組み状況と今後の活動予定をチームリーダーから報告した後、各委員の方々との意見交換を行い、今後の活動内容について具体的な提案をいただきました。また、次年度の課題設定にあたっての意見もいただきました。

普及センターでは、検討委員の方々からいただいた内容を今後の活動計画に活かし、より効果的な普及活動を展開していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>

〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>

〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>

〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>

〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>

〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>

〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>

〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.224

発行日:2025 年 10 月 16 日

発 行:宮城県農政部農業振興課

編 集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp